

【竹炭作りにおける 事故ゼロ安全管理マニュアル】

炉の設置場所

- 木々、住宅等、炉から周辺の環境への距離を十分確認した上で、決定する。
- 距離をとることが不可能な場合は、別の場所を選択する。
- 水を準備できない場所では行わない。

材の設置場所

- 風下に幹の部分を置き、枝の部分は風上に置く。
- 炉と材の距離は少なくとも 3 メートル以上離す。

作業の事前確認と進行上の注意

- 消防署に竹炭づくりの現場住所、開始と終了予定時間の連絡を入れる。
- 風が強いときは中止にする。
- 炉の大きさにもよるが、4名以上で行う。
(小規模で行う場合も、2名以上が厳守)
- 8分目位水を入れたバケツと柄杓を炉の周りに4箇所以上設置する。
- 消火用の水を十分に用意しておく。
- 消火の体制(バケツ、タンク、ポンプ、消火器)を完全に整えてからの、火入れが絶対条件。

作業の事後確認

- 竹炭が灰にならないように完全な消火が出来ているかの入念な確認をする。
(熱の有無)
 - 炉の周りにも、安全確保のために水を十分に撒く。
 - 焼いた翌日も、再度消火が完全に行えているか確認をする。
- ※ 緊急時には、速やかに消防署へ連絡する。